

本校の進学の実況と課題

進路指導主事 越後屋 文枝

0. はじめに

鹿沼東高校ではスクール・ミッション（本校の存在意義・社会的役割）を「知的好奇心を刺激する探究活動や学校行事を通して、生涯にわたり自己実現する力を育成する学校」と設定しています。「自己実現する力」の一つは紛れもなく高校卒業後の進路を実現する力です。この目標を達成する上で、我々進路部の果たすべき役割は重大です。生徒一人一人が自分自身を大切に、目指す進路の実現を達成できるよう、教職員が力を合わせ、できる限りの情報提供、サポート等をしていきたいと考えています。

1. R6 年度入試の結果にみられる特徴

<過去5年間の主な進路結果まとめ>

	国公立大学合格者数			私立大学合格者数				短期大学		専門学校		就職	
	公立大	関東圏		白鷗大	国福大	推・総合		県内		県内医		公務員	
R1	20	10	8	222	22	17	64	21	13	46	15	2	2
R2	22	7	17	263	45	15	68	9	7	32	13	5	2
R3	29	8	19	277	46	17	68	9	6	31	12	0	5
R4	20	11	7	208	47	23	61	16	11	33	22	0	3
R5	32	18	10	189	44	14	64	5	5	35	22	1	4
R6	13	4	4	212	30	21	63	6	3	36	23	4	3

※R4の国公立大学合格者数の中に防衛大学校1名を含む。

(1) 4年制大学合格にみられる特徴

○国公立大学の合格者数 13 名

新課程の1年目ということで、面接や小論文の内容も今までと傾向が変わった大学が多く見られ、それに対応できない生徒がやや多かったように思われます。また、後期までがんばり抜く余力が残念ながら残っていない人も少なくありませんでした。

○宇都宮大学には3名が合格しました。

すべて、一般入試での合格でした。公募制の推薦で宇都宮大学を目指した人もいましたが、合格者はいませんでした。「チャンスが一回増えるのだから受けておけば、もしかしたら受かるかも知れない」というくらいの志で

は合格するのは難しいようです。新課程ということで、大学側の求める学生像が変化していることもあるかも知れません。低学年からオープンキャンパスなどで情報を得ておくといでしょう。

○国立大学 9 名に対し、公立大学 4 名の合格者

本校では公立大学の受験者が近年増加傾向にあります。その理由として二つあげられます。

①公立大学入試で課される共通テストの科目数の少なさ

②公立大学そのものの増加

まずは科目数ですが、公立大学の場合、文系なら数学や理科が、理系なら古典や地理が課されない場合があります、それらの科目が不得意であっても合格できる可能性があります。

また近年は、元々私立大学であった大学が公立化しており、大学数や入学定員そのものが増加しています。

○私立大学の合格者数は 212 名。一般選抜以外での合格が増加。一般選抜においては、昨年度の三年生の特徴として、共通テスト利用で私立大学を受験する。さらにいえば、担任などのアドバイスにもかかわらず、共通テスト利用でしか私立大学を受験しなかった者が少なくありませんでした。共通テスト利用で受験を行う私立大学は増えていますので選択肢に入れてもよいのですが、共通テストでとってしまった点数は変えようがないので、新たなスタートラインに立って勝負できる個別入試を受けることも大切だと考えます。

○白鷗大学の合格者数が 30 名と減少。

近年、全国的に教育学部の人気がない傾向が続いていますが、本校生には白鷗大学の幼児教育を志望する生徒が毎年一定数います。また、白鷗大学は学業特待制度が充実していると言われているのでその意味でも志望する生徒はそれほど減らないと考えられます。

○国際医療福祉大学の合格者数が 21 名と激増

近年はまとまった人数が進学しています。学校推薦型選抜や総合型選抜での合格者数の増加が要因の一つです。また、臨床検査の資格が取れる学科もこの 4 月から開設しています。

○県内占有率が減少

進学者数の県内占有率は例年40%前後でしたが、今年度は約30%に減少しました。新型コロナウイルスの影響が少なくなりつつあるのかもしれませんが。

○学校推薦型選抜や総合型選抜での合格者数は、前年と同様の 63 名。

学校推薦型選抜や総合型選抜はいわば“諸刃の剣”でもありますので、利用するかしないかはご家庭で慎重に判断してください。また、後述しますが今年度より大きく変わることがありますので、より慎重にご判断ください。

(2) 短期大学、専門学校、就職にみられる特徴

○短期大学への進学者は減少。専門学校は平年並み。

4年制大学への合格者の増加に合わせての変化です。四大志向が高まった感があります。

○県内の短期大学では國學院大學栃木短大が 2026 (令和 8) 年度以降の学生募集を停止することを決定

短期大学は 6 名中 3 名、専門学校は 36 名中 31 名が県内の学校であり、県内志向は強いです。

○県内医療看護系専門学校へは 23 名が合格

県内看護系専門学校の進学者が増加しました。獨協医科大学附属看護専門学校は 8 名が進学します。

○就職・公務員へ進む生徒数が増加。

3年生になって就職に切り替えた生徒がいました。公務員試験は2年生のうちから準備をしないと難しい面があります。

(3) その他

○進学準備者も複数名います。

高い志望を掲げてチャレンジした結果、合格を勝ち取ることができず、次年度もう一度挑戦する生徒がいます。本人の強い意志と、ご家庭での支援が重要になります。ちなみに河合塾や駿台予備校などの大手予備校に通うとなると一年間の授業料は100万円を超えます。また一番近くでも大宮まで通うとなれば通学費用・時間もかかります。

○今、全国各地の大学でデータサイエンス系が人気。文理融合の分野。

名前に「データサイエンス」と入ってなくても学ぶ内容は「データサイエンス」である学部学科は多く見かけます。今後必要とされる分野かと思いますので、興味がある人は注目してください。

2. 進路実現に向けて保護者の方へのお願い

昨年までは「現役合格に向けて」ということで各学年の時に取り組むべき学習等についての話を載せていましたが、今年度は少し趣向を変えて、保護者の皆様へのお願いをあげてみようと思います

(1) 経済面についての話し合い

現在、様々な要因による物価の高騰が問題化しています。経済面の条件から、自宅から通える進学先を目指す生徒が多くなってきているように感じます。国公立大学であれば、自宅外からの通学も考えられるけれども、私立大学の場合には自宅からの通学しか認められない、ということで、もともと勉強したかった学問ではないものを学ぶことになったり、同じ資格が取れる専門学校へと進学先を変える姿が見られました。

お子様が大学入学を希望するご家庭が注意すべき経済的な問題には、以下のようなものがあります。

- ① 学費：大学の学費は非常に高額で、特に私立大学や理系学部ではさらに費用がかかります。学費の制約を感じる家庭は多く、進学を断念する理由の一つとなっています。
- ② 生活費：自宅外の大学に通う場合、家賃や食費などの生活費も大きな負担となります。特に都市部の大学では生活費が高くなる傾向があります。
- ③ 奨学金と教育ローン：多くの学生が奨学金や教育ローンを利用していますが、これらの返済が将来的な負担となることも考慮する必要があります。
- ④ アルバイトの影響：学費や生活費を補うためにアルバイトをする学生も多いですが、アルバイトが学業に影響を及ぼすことがあります。
- ⑤ 進学と就職の選択：経済的な理由で進学を断念するか、就職を選ぶか迷う学生もいます。進学が必ずしも最良の選択ではない場合もあるため、家族で十分に話し合うことが重要です。

ご存じの方が多いかも知れませんが、2025年から、子どもが3人以上いる家庭に対して、大学の入学金と授業料が無料となる制度が始まりました。この制度は、多子世帯が経済的な理由で高等教育を諦めることを防ぐための支援策です。

主なポイント

対象世帯：子どもを3人以上扶養している家庭が対象です。

所得制限なし：世帯の所得に関係なく支援が受けられます。

支援内容：入学金と授業料が無料となります。例えば、国立大学では入学金28万円、年間授業料54万円

が上限となります。

申し込み方法：高校3年生の段階で申し込む「予約採用」と、大学等へ進学後に申し込む「在学採用」の2種類があります。

この制度を利用することで、経済的な負担を軽減し、子どもたちにより良い教育の機会を提供することができます。具体的な申し込み方法や注意点については、日本学生支援機構のウェブサイトなどで確認できます。

また、近年、給付型の奨学金も多く見られるようになってきました。ひとつ、古くから栃木県内の高校生に給付型奨学金を授与し続けている飯塚教育英会を例にとりますと、給付に関しては以下ようになります。

- | | |
|------------|--|
| (1) 給付額 | 月額 57,000 円 年額 684,000 円 |
| (2) 給付期間 | 4年以内とします。
給付を受ける者(大学奨学生)の年齢が満 30 歳に達する年度の前年度までとします。 |
| (3) 入学祝い金 | 新規採用年度の第 1 回給付時に入学祝い金として一時金 100,000 円を上限として給付します。 |
| (4) 奨学金の返還 | 不要 |
- (飯塚教育英会のサイトより抜粋)

この奨学金は、高校を通じて推薦することになっていますが、その条件は「高等学校の全学年を通じて学習成績の評定平均値(5段階評定)が 4.3 以上の人」です。(※飯塚教育英会のサイトにはこのほかにも詳細が記載されていますのでご興味ある方は各自でお調べください。)この奨学金に限らず給付型の奨学金に関しては、学業成績が問われることが多い印象です。3年生から努力を始めるのには相当の難しさが伴いますが、1,2年生の時からしっかりと学習をするということが広い意味での進路実現につながっています。

繰り返しになりますが、先の見通しの難しい世の中です。お子様ももう大人に近づいております。経済面についてもお子様と十分話し合いをしていただきますようお願いいたします。

(2) 入試制度などの変化

「共通テスト」の実施や「新課程」入試などよく耳にされるかと思います。毎年、全国各地どこかの大学では何らかの改革や変化が起きているという現状です。本校教員も情報収集に当たっており、お子様を通じてできるだけ迅速にお知らせすることを心掛けています。

さて、今年度に関しても今ここでお伝えしたい大学入試に関して大きな変化が2点あります。一つめが大学入学共通テストの出願手続きの電子化、そして2つめが総合型・学校推薦型選抜で学力試験の実施が可能になるということです。

共通テストの出願に関しては、詳細が発表されるのは6月の予定です。間違いがあってはならないため、本校では教員が見守る中で各自が手続きができるようにただいま調整中です。ご家庭で準備していただくこと(受験料の納入など)もありますので、今後の連絡にご注意ください。また、ご家庭でも「独立行政法人 大学入試センター」のホームページ(<https://www.dnc.ac.jp/>)をお時間あるごとにご覧おきください。

続いて、これまで学力試験は2月1日以降と定められていましたが、9月以降の推薦入試での実施が容認される見込みです。これは新しい話題かつテレビ等でニュースになっているのをあまり見ていませんので初めて知る

方も多いかも知れません。つまり、今回の方針変更により、大学側は 9 月以降の総合型・学校推薦型選抜でも学力試験を行うことが可能になります。ただし、その際の学力試験は「面接・小論文」との組み合わせが条件で単独での実施は不可ということです。また、当然ながら、大学ごとに試験の内容や実施時期を決定します。

受験生や保護者への影響としては、「推薦入試＝学力試験なし」と考えていた場合、面接や小論文に加えて学力試験に対しても対策が必要になることも考えられます。一般選抜(2月以降)よりも早い時期(9月以降)に学力試験が実施される可能性があるのです。端的に言って、早い時期からの負担が増えます。すでに、現時点でも総合型や推薦入試に学力試験を課すと発表している大学がいくつかあります。志望している大学の入試要項を確認し、早めの受験準備が望まれます。

(3) 手続き上等のミスを防ぐ

合格内定をもらったのに、合格後の手続き(入学金の支払いやメールアドレスの登録など)で不備があり、場合によっては内定が反故になってしまったということもあるようです。また、自分が勉強したい学部のキャンパスの場所の調べ方が不十分で合格しても進学するのを断念したということも耳にしました。

進学希望者に限らず、今年度の3年生に限らず、本校を卒業していく全ての生徒が自分の望む進路を実現してもらいたいと思っています。そのためのサポートはできるだけいたしますが、上記のようなミスがあるとどうにもなりません。ご家庭での細心のご注意をお願いいたします。

6月には新しい「進路資料・進路のてびき」も発行となります。入試結果や共通テスト分析、就職者の動向、また、総合型についての説明や学校推薦型本校の校内推薦基準なども載せております。お時間をかけて、そちらをよくお読みいただき、進路についてお子様とお話し合いいただければと思います。

高校卒業後の進路選択は人生の大きな節目であり、慎重に考えるべきものです。しかし、お子様に迷いや不安があるのは当然のことです。保護者の皆様は、保護者としての視点と共に、社会で活躍していらっしゃる社会人の先輩としてもぜひお子様にアドバイスをしてあげてください。また、自分自身を信じ、挑戦する勇気を持ちながらも進路実現に向け邁進し、成長するお子様方と共に保護者の皆様も新たな視点を得ることにつながれば、お子様と一緒に得る財産が一つ増えることになるかと存じます。